

第2回つながろうCO・OPアクション交流会に参加して

組合員活動委員 佐々木恵美子

3月14日は福島駅前「コラッセふくしま」で、「原発事故から生協組合員の暮らしをとりもどしたい」というテーマを含めた全体会や、分科会、パネルディスカッションがおこなわれた。

被災地ではボランティアも減ってきており、取り残されている、見捨てられているという気持ちを持っている人たちが多くいるという事でした。考え方、経済力の違いが格差を広げている。物資の応援もうれしいが、それにも増して仕事が欲しいという声も伺いました。被災者も支える行政側も共に苦しくなっている、そういう状況だそうです。

15日は福島県南相馬市、小高町から海沿いに北上し、宮城県名取市閑上（ゆりあげ）地域を視察しました。

福島は丸2年たっても津波にあった車がまだ放置されていたり、いたる所に津波の傷跡がそのまま残されていました。閑上は更地が広がっていました。買い物に寄った復興商店街の皆さんは明るかったです、でもお話を伺っていて明るくしていなければ、やりきれないという気持ちなんだろうと思いました。



この被災地で生協ができる事は？

生協は地域に住んでいる住人、組合員の集まりだからこそ地域の団体や行政の間をつなぐ役割がこなえます。今年の協同組合年を経て様々な団体とのつながりもできてます。全国の生協ともつながって大きな連帯の輪が生まれそうで期待が持てます。

組合員に寄り添い続ける生協であり続けてほしいと思います。